citation and similar papers at core.ac.uk
brought to
provided by Tokushima University Ins

特　集　地域で守る地域医療－地域の取り組みと支援体制

【巻頭言】

鶴　尾　吉　宏（徳島大学大学院医歯薬学研究部顕微解剖学分野）
谷　　　憲　治（徳島大学大学院医歯薬学研究部総合診療医学分野）

わが国の人口の少子高齢化によって，2014年には65歳以上の高齢者人口は25.6％となった。2025年には高齢者人口はピークに達するとされているが，地方においては既にピークを迎えている市町村も多く，独居や夫婦のみの高齢世帯や認知症高齢者の増加に加えて，高齢者多死時代が現実となっている地域も少なくない。そのような地域では，高齢者が高齢者を支えるなど，地域を地域で守っていく「地域完結型」の仕組み作りが重要である。医療においても同様のことが言えるが，地域医療といってもその地域によって生活環境も異なり，地域内の医療機関だけでなく周辺の総合病院や救急病院の存在やその間の交通手段など，地域それぞれによって取り組むべき課題は異なる。一般的には地域医療の世界に必要とされる能力は総合診療であるとされており，あらゆる病気に対して病気と共存しながら Quality of Life の維持・向上を図っていくことが大切である。徳島県の山間部に位置する美馬市木屋平地区はそういった環境を持つ代表的な地域であると言える。また，医師の地域偏在による医師不足が問題になっているが，それを一気に顕在化させたのが平成16年の臨床研修制度の導入である。大学を卒業した医師が都市部の臨床研修病院に集中したことで，地方大学の医局は空洞化に陥り地域医療機関への医師派遣能力が低下してしまった。徳島県南の海部郡に位置し，同域の地域医療に貢献してきた県立海部病院も例外ではなく，経験したことのない医師不足によって110床の病床を持ち海部郡の救急医療の中心的役割を担っていた同病院は外来・入院患者数を減らし土曜日の救急受け入れを休止せざるを得ない状況となった。

本報では，地域で守る地域医療をテーマにして，県中部の美馬市木屋平地区と県南部の海部郡で行われてきた取り組みを紹介し，その支援として徳島大学が取り組む地域医療に貢献する医師の育成，および徳島県による地域医療政策について紹介する。